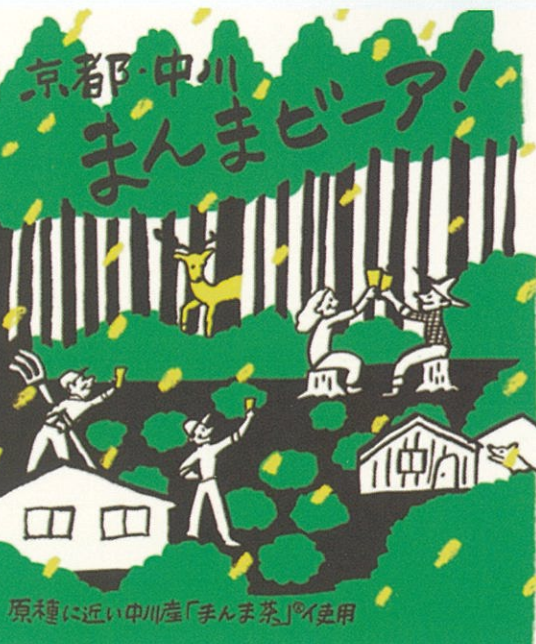


2019年度

中川学区の暮らし再発見プロジェクト活動記録 Vol 5

京都・中川
まんまビール

「ビールの苦味」×「お茶の渋み」



要冷蔵
ビール
ALC VOL NET CONT
5% 330ml
おいしい温度
4℃～6℃

製造者：NPO法人 HEROES
京都市上京区堅門前町414
西陣産業会館 075-366-3627

原材料：麦芽（ドイツ製造）
ホップ、焙煎茶葉／炭酸ガス
アルコール分：5% 麦芽使用
率：50%以上 内容量：330ml



大谷大学 × 京都 西陣麦酒

北山杉の里、京都・中川。
そこで昔から山仕事の合間に親しまれてきた
「まんま茶」を大谷大生が収穫し、地域の皆さん
と大谷大学、NPO法人HEROESの協同で
クラフトビールにしました！
売り上げの一部は、大学生による地域サロ
ン活動「and house.」や夏祭りなどの地域交流、
SNS等を使った中川の魅力発信活動に使わ
せていただきます。茶葉の醸し出すふくよかな香
りと共に、爽やかに飲み干せるビールです。季節ご
とに変化する茶葉の風味をお楽しみください！



活動の詳細は、インス
タグラムをご覧ください！
#otaniandhouse



※底に酵母がたまる場合がございます。振拌すると
しない場合での風味の変化をお楽しみください。

△・お酒は20歳になってから
・妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の
発育に悪影響を与える恐れがあります。
・瓶に衝撃を与えないでください。

「京都・中川 まんまビール！」を御
贈答などにもぜひご用命ください。
なお、完売の場合は次回の醸造をお待
ちいただければ幸いです。

編集後記

2015年から始まった中川での大谷大学の活動も今年
で5年目を迎えました。住民の方が大切にし、守り
続けてきた中川地区。何度足を運んでも昔ながらの伝
統や生活文化がひしひしと伝わってくる魅力的なまち
です。しかし、この魅力的な中川で生活していくこと
は決して簡単なことではないと活動を通じて感じまし
た。改めて、この一年を振り返ると、昨年と比べ住民
さんとの距離が縮まったように感じます。学生が企画
をしサロンを終えて報告するときには「住民さんの笑
顔が多く見れた」「中川地区の歴史などを聞いた」
など成果も感じられました。まだまだ地域の方との
交流を進めなければなりません。生活文化の保存に
も力を入れたいと考えています。

(3回 高井勇人)

購入するには？

<https://www.762npo.jp/>
もしくは「西陣麦酒」で
検索🔍 下記QRからも可！
瓶・樽ともに
購入可



京都 西陣麦酒



「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」

2020年2月 発行
編 集：大谷大学地域連携室 コミュ・ラボ
発 行：大谷大学 and house. （志藤ゼミ）
本事業は「北区まちづくり提案支援事業」の助成を受けています。



ご挨拶

大谷大学の皆さんと私達中川の住民との交流が始まって、早5年。

手探りの状態から様々な場面で、そしてそれぞれの地区での活動に積極的にご参加頂き、本当
にありがとうございます。今では学生の皆さんは、中川学区の大切な交流人口の一人です。

僕は地域活動をする上で、大切にしていることがあります。

「自分自身も、楽しんでやろう！」

「自分ごととして考え、行動しよう。」と。

学生の皆さんもこの5年で、「なんとなくお客さん」という雰囲気から、「自分の家」だっ
たり「自分のお爺ちゃん、お祖母ちゃん」といった雰囲気になってきたように思います。これか
ら、一緒に楽しみながら、活動していきたいと思います。



水田隆一
社会福祉協議会会長

2019年度 年間活動

4月23日 北区提案支援事業報告会参加

4月24日 中川学区内町歩き・地域踏査

5月8日 「健康ふれあいクラブ」

5月22日 真弓地区「and house.」

6月1日・2日 まんま茶プロジェクト{お茶の製造}

6月12日 「健康ふれあいクラブ」

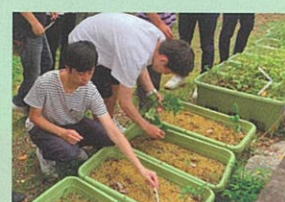
6月19日 まんま茶プロジェクト{お茶挿木}

6月26日 真弓地区「and house.」

7月10日 「健康ふれあいクラブ」

7月28日 真弓地区道がり

8月14日 中川夏祭り



(写真は中川写真展で使用したものの一部です)

9月11日 「健康ふれあいクラブ」(敬老を祝う会)

10月9日 「健康ふれあいクラブ」

10月17日 真弓地区「and house.」

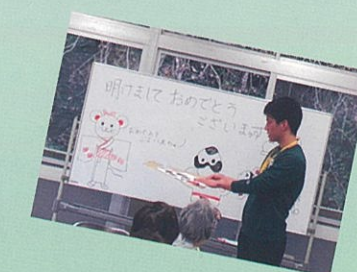
10月26日 まんま茶プロジェクト{第2回お茶の製造}

11月13日 「健康ふれあいクラブ」

12月5日 真弓地区「and house.」

1月8日 「健康ふれあいクラブ」

1月18日 まんま茶プロジェクト{ラベル貼り}



第2回 写真展 11月9日～10日 <大谷大学 紫明祭>

中川の写真・映像の展示発信と
まんま茶&お団子の販売をしました。



写真展

第1回 8月3日～4日 大谷大学オープンキャンパス

「and house.」これまで私達が見てきた中川の姿を、高校生や保護者の方々に知ってもらう機会として、オープンキャンパスで活動の展示をおこないました。

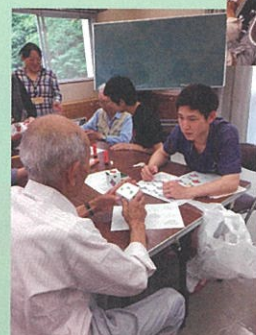


健康ふれあいクラブ（中川社会福祉協議会主催）への参加

中川社会福祉協議会が毎月第2水曜日午前実施されている「健康ふれあいクラブ」に参加させていただきました。ゲームや手作りの活動、音楽鑑賞や体操など、毎回多くの住民さんが賑やかに交流される中に入らせていただき、楽しい時間を過ごしています。時折、学生が取組内容を提案させていただくなど、活動の企画・運営もしました。みなさんとの交流の合間に聞かせていただく中川での暮らしの今昔に驚いたり感心したり。また、美しい風景や綺麗な空気と自然の豊かさ、けれども年齢を重ねると不便なこともあると伺いました。今後、学生の活動として何ができるのか、何かできないか、考えさせられます。



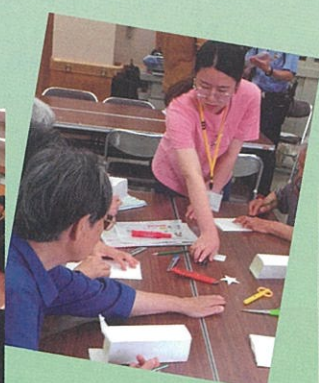
パズルづくり



ゲーム大会



灯籠づくり



敬老を祝う会

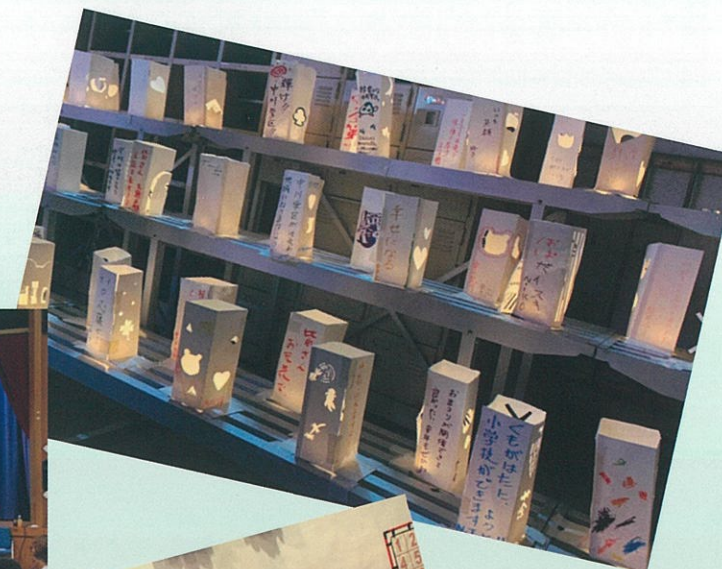


新年会



クリスマス会

8月14日
中川学区夏祭り



今年の夏祭りは、学区民のみなさんの実行委員会に参加する形式で準備を進めました。当日は台風の影響もあり中川小学校の体育館での開催となりましたが、150名を超える皆さんが参加されました。

学生は、and house.や健康ふれあいクラブの参加者の方と一緒に作った灯籠への、メッセージを記入いただくコーナーとゲームコーナーなどに取り組みました。

参加者の中にはお盆の里帰りされている小さいお子さんの姿も見られ、こういった行事を通じて、懐かしい顔、新しい顔が繋がっていくのを感じました。

真弓の道がり（道掃除）7月28日



杉阪との別れ道から真弓の集落までの数キロ間の道掃除。真弓地区の住民の皆さんの作業に参加させていただきました。川沿いには無残な倒木。昨年の台風の爪痕ということでした。災害が身近に感じる瞬間でした。

中川学区内にある真弓地区の廃校になった小学校を借りて。真弓地区の方々との交流企画を行っています。お茶を立てたり書き初めしたり、焼き芋焼いたり、毎回楽しい交流をしています。活動を始めて5年が経ち、学生も入れ替わりとなっていきますが、住民の皆さんとの交流は毎回楽しみです。企画を通して楽しく会話しながら、前回の東京オリンピックの話や昔のお仕事の話など、学生にとっては始めて聞く興味深い話をしていたけます。皆さんの話の中から地域の魅力や、価値も発見できます。また、今後の活動のヒントもいただいています。

5月22日 茶筌・令和書初め



今年度初めての活動は去年とメンバーが変わり、にぎやかな会となりました。令和を題材にした書初めでは、個性豊かな字が並びました。お茶席では大谷大学の茶道部指導のもと、一人ひとりに体験していただきました。

6月26日 灯籠づくり

中川の夏祭りで飾る灯籠を学生と住民さんとで作りました。灯籠の一面には希望や願いを書いていたいただきました。一緒に作業を行ったことで会話が広がり、お盆の過ごし方や、外出の事情など、暮らしの現状についてもきくことができました。



10月3日 ハロウィンと焼き芋パーティー



新たな学生メンバーも加わり、体操、ハロウィンパーティーと焼き芋にチャレンジしました。



火起こしから焚き火での焼き芋は初めての挑戦の学生ばかりでしたが、慣れた地元の住民の方のサポートでなんとか無事にいただくことができました。



12月19日 クリスマスと鍋パーティー



地元の野菜を使っの鍋パーティー、参加者学生とともに女性が多いので食べるプログラムばかりの後半でした。地元野菜の美味しさには一同感動。会話も弾みました。



学園祭での中川の写真と映像展

今年は、11月9日～10日に学園祭にて中川の動画・写真展を開催しました。

教室では、ゼミ活動の写真や学生が制作した中川の動画を2台のプロジェクターと3台のiPadを使用し映像を流しました。

中川・動画写真展の入場者数は2日間で、240名ほどでした。

展示会場に来られた方とお話していると、北山杉発祥の地である「中川」という地名を知っておられる方年齢の割合では40代からの方が多く、また、「凄く風景がきれいですね」、「車でどのくらいかかるのですか」、「今度行ってみます」などと言って頂く事があり、興味を持って頂けたと感じました。



SNSを通じた活動の情報発信

今年度から、より多くの方の目に触れる機会を作るために、SNSを通じた情報の発信をすることとしました。中川のこと、大学の活動のことなどを知ってもらえる機会になればと思っています。これからは、数多く楽しい投稿をしていく予定です。

フォロワーへの登録よろしくお願いいたします。



まんま茶プロジェクト

「まんま茶」とは、中川で栽培されてきたお茶で、自然のままに栽培され、あるがままに飲まれてきました。「自然のまま」・「あるがまま」の中川のお茶を復活させようと、中川学区の住民有志の方々が「お茶復活プロジェクト」を立ち上げました。ゼミでは、このプロジェクトに参加し、お茶の製造を進めています。11月の学園祭でふるまった「まんま茶」も大変好評でした。今年からこの「まんま茶」を使ったビール作りにも取り組みました。



京都・中川まんまビア！ができるまで

①お茶摘み（急斜面での作業、でも楽しい）



②選別作業（ここまでは楽しい）



③蒸す（学生の技術が向上中↑）



⑥HEROESによる醸造



⑤HEROESへ茶葉を渡す



④煎る（ひたすら無言で作業）



大学でお茶の苗木も育成



多くの人にビールを通じて中川の伝統産業や魅力などを知ってもらふことにより、中川に足を運んでいただき、実際の現状などを知ってもらいたいという思いで製品開発を進めました。できたビールを普及することで、中川学区、ゼミの活動であるand house.、ビール製造をしていただいた福祉事業所「NPO法人HEROES」に関心をもっていただきたいと願っています。

HEROESのクラフトビール

「まんまビア！」の瓶には、「自閉症の人とともに」というタグがかけられています。醸造する「西陣麦酒」を運営するNPO法人HEROESさんでは、**みんなで楽しめる商品を自閉症の利用者さんとともに作り地域に広めたい**という想いでクラフトビールをつくられています。「HEROES」という名前には、「人生の主人公たち」という意味が込められており、「まんまビア！」もそうしたヒーローたちの手によって作られているのです。



タッブルームでも飲めます！

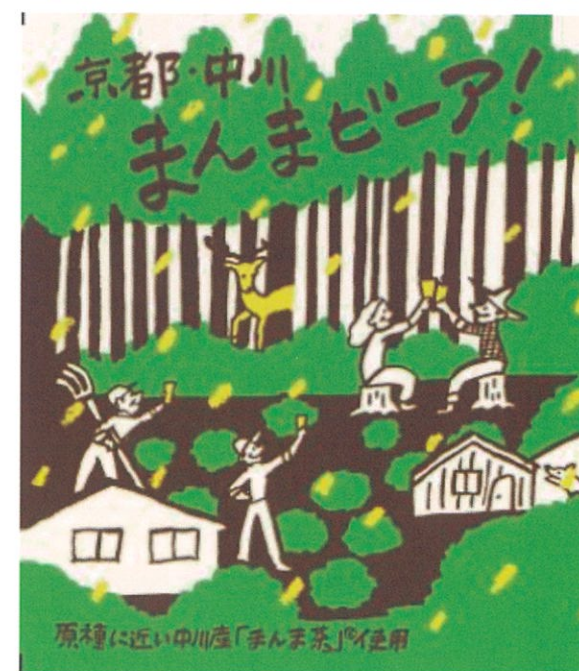
特定非営利活動法人HEROES

デイセンターHEROES
住所：京都市上京区堅門前町414
西陣産業会館
Tel：080-2514-3441
Fax：075-366-3628
メール：nishijinbakushu@gmail.com
開所日：月曜日～金曜日
9時～17時（商品購入可）
※タッブルームの営業は金曜日のみ
営業予定日の詳細は、HEROES
フェイスブックページよりご確認ください。

ラベルにこめた想い

ラベルデザインは、学生のアイデアを北山にゆかりあるデザイナー・岸本敬子さんにイラストにいただきました。杉とお茶の緑にビール感(ポップ感)を差し色として入れています。

自然に囲まれ人の手で丁寧に育った感じ、楽しく美味しそうなイメージが伝わればと思い、手描きで作成していただきました。



Illustration&Design by Keiko Kishimoto

（公式サイト：<https://keikokishimoto.jimdofree.com>）

特別対談 水田隆一×松尾浩久

<中川社会福祉協議会会長>

<NPO法人 HEROES 理事長>

聞き手 下岸由宣 & 山田大誠
 <大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科>
 + 野村実 (大谷大学助教)

今回の「京都・中川 まんまビール！」の取り組みについて
 どのように思われましたか？

松尾：高齢化が進んでいる地域に学生が関わっていることに対し、単純にいいことだと思いました。そこにHEROESと一緒にできることにわくわくし、有難いと思いました。

水田：水田：「お茶ビール」って聞いたとき、正直イメージする事が出来ませんでした。お茶については、数年前から学生の皆さんに関わっていただいていたのですが、その先を見据えての活動が僕自身の中でもなかなか見えてこなかった。そこに今回のビールの話。福祉活動をされているHEROESさんとご一緒出来ることを、すごく楽しみにしています。これを機会に、さらにお互いの活動の幅が広がることを期待していますし、HEROESさんの利用者の皆さんと中川の住民が交流出来る、そんな機会が作れば楽しいのではと思っています。



「京都・中川 まんまビール！」ってどんな味ですか？

松尾：HEROESでは、少量醸造するタイプでちょっとアルコール度数の強い「エールビール」を手がけています。その中でも、コクがありまろやかな味わい、また、見た目も綺麗な色の「ゴールドンエール」というビールに合わせてみました。どのタイプのビールがあうのか、どのタイミングでお茶を入れるとお茶の良さが引き出せるか、かなり苦慮し、何度も試行錯誤しました。まんま茶の香ばしさはビールと相性がいいと思います。お茶の風味とその香ばしさを活かしつつ、エールビールらしい味わいをひき出すことも成功し、案外いい感じになっていったと思います。ぜひ、楽しんでいただけたらいいなと思っています。

山田：先日試飲させていただきました。いつも飲むビールとは違い、炭酸が強く鼻から抜けていく感じがしました。ぐいぐい飲める感じでした。また、鼻から抜けた時にお茶の風味がし感動しました。



水田：今回のお茶は秋に取ったしっかりした茶葉だった。秋に取った茶葉は、長期間太陽があたるのでカテキンがきいていたのかもしれないですね。5月、6月の新茶だと、少し柔らかい感じになるかもしれない。新茶のお茶と、秋に採ったお茶とで、上手く使い分けができるのではないかと思います。

野村：学生とのミーティングで春と秋とでラベルで差別化していければいいなと思ったりしている。今後も、お茶摘みもビール作りも大学、学生と一緒に関わって協力して活動していけたらいいですね。

「京都・中川 まんま茶ビール！」で皆さんに伝えたいメッセージは？

松尾：単純にお茶が美味しいな、ビールが美味しいなと楽しんでもらうこともありますが、その中の数%の人が、中川はどのような地域なのかなどに興味を持ってもらい、繋がっていければいいと思います。もちろん、私たちが取り組んでいる自閉症の人の活動や福祉事業に関心をもってもらえたら万々歳ですね。

水田：高齢化が進み、人口減に陥っている地域の一つとして、中川で「なんだか面白そうな取り組みをしている。」、しかも「学生や福祉施設のみなさんも係わりながら。」。・・・なんて楽しいですね。地域住民も、福祉施設の利用者の皆さんも、そして学生の皆さんにもそれぞれの暮らしがある。そんな様々な背景を持つ人々が「まんまビール」を介して、交流し、お互いを知り、理解し合う。そんな素敵な出会いの場になれば、本当に嬉しく感じます。また地域のことで言えば、中川の「歴史」や「今の暮らしや課題」などを知っていただけるきっかけにもなれると思っています。これを機に、一緒にアクションを起こし、お互いの暮らしに「楽しいアクセント」を生み出せれば、意義のある事だと思っています。松尾さんのHEROESさんとは、今後も一緒に活動していきたいと切に願っています。よろしくお願い致します。

松尾：僕らも街中で障害福祉をやっていて、孤立しがちだし、分野が狭いと感じています。こうやって地域と交流する機会は本当に有難く、これからもぜひ一緒にやってみたいと思っています。本日はありがとうございました。



2020年2月13日「京都・中川まんまビール！」広報発表しました！

